



鳥取県立鳥取東高等学校同窓会東京支部
東京東雲会会報 創刊号
平成30年5月発行
編集・発行：東京東雲会
[事務局]
鈴木・曾我法律事務所内 東京東雲会
題字：奥村 浩治 (山脈22回)



創刊のご挨拶

東京東雲会会長 林田 英樹(山脈12回)

東京東雲会の会員の皆様には、日ごろ本会の活動にご支援・ご協力をいただき、まことに有難うございます。

私は、平成29年度の総会で、鈴木誠前会長からバトンタッチを受け、会長に就任した山脈12回(昭和36年卒)の林田 英樹でございます。どうぞよろしくお願いたします。



鈴木前会長には、暖かいお人柄と強力なリーダーシップで長きにわたり会の発展に多大なご貢献を頂きました。会長に就任して初めて知ったことですが、事務処理や運営費への毎年のご寄付などを含めて、至れり尽くせりのお世話を頂いてきております。当面は、引き続き強力な応援を続けるのお申し出を頂いていることに、深く感謝申し上げますとともに、出来るだけ早く自立した運営ができるようにしていくことが、私の第一の仕事であると考えております。

最近、日本の社会のあらゆるところで絆の力が弱まっているようで心配ですが、幸い東雲会の同窓生の中には、母校に対する感謝の気持ちや同窓生同士の団結力の強い伝統が生きているのではないかと思います。このような良き校風ができたのは、毎年欠かさず総会、幹事

会に出席して下さっていて、惜しくも昨年末に他界された元会長の西村 和義先輩(山1)をはじめとする諸先輩のお力によるものと深く感謝しております。諸先輩が築かれた良き伝統の更なる発展のために、役員の皆様と力を合わせて努力してまいりますので、一層のお力添えをお願い申し上げます。

若い人たちにもっと多く参加してもらうことは、これからの重要な課題です。今回の役員改選を機に、若い役員の数を増やし、新たに会報を発行し、「東京東雲会」のホームページを立ち上げることいたしました。この会報とホームページが、会員の皆様との円滑な情報交換に活用され、会の発展に貢献できるようにしていきたいと考えております。

本会の最も重要な活動は、年に1回開催する総会と懇親会ですが、毎年7月の最初の土曜日に霞が関の法曹会館で開催しております。母校や東雲会本部からの近況の報告をいただくほか、各界で活躍している同窓生の講演や演奏を聞き、福引で盛り上がり、竹輪、西瓜などのふるさとの味を楽しみながら、懇親を深めるのが恒例となっております。

母校は、2022年に創立100周年の大きな節目を迎えます。同窓会活動の充実は、母校に対する最大の応援でもあると思いますので、会員の皆様には、お誘いあわせの上、本会の活動にご参加いただきますようお願い申し上げます。

東京東雲会と共に50年



東京東雲会名誉会長 鈴木 誠(山脈5回)

はじめに

私は昨年6月まで東京東雲会の会長を務めさせていただき会務に関与させていただいておりました。その間長年の念願であった会報を発行することはできませんでした。このたび福田静香さん、須崎浩史さんら山脈45回のメンバーを中心にようやくこれが実現する運びとなり大変うれしく思っています。その創刊号です。会の発足とこれまでの活動について書かさせていただきます。と思っています。

東京東雲会の誕生

東京東雲会が発足したのは昭和30年の春のことで、浜本清海先生(柏葉7回)が中心となって設立されています。旧制鳥取二中 同窓会「柏葉(はくよう)会」と鳥取東高 同窓会「山脈(やまなみ)会」が統合した、その時の様子が浜本先生の書かれた「東京東雲会創設のころ」(平成4年7月)に記されていますのでその一節を引用しますと、
「三十年の春 浅草の森永ミルク社の二階に柏葉と山脈と別々の部屋に集った。柏葉は吉村徳太郎(2回)、加賀美忠男(3回)、乾周市(5回)、林泰彦(8回)、竹内信宣(10回)さんたち、山脈は一期生の野津昭人、西村和義、足立隆、二期生の岩田拓郎さんたち。私は最初柏葉会の部屋で相談し、山脈の部屋へ行って、柏葉会の意を伝えた。野津さんたちはよく理解してくれ、他

の若い人達と話し合い数刻の後、柏葉の部屋へきて、両者一緒やりましょうということになった。皆大喜びで一杯やった。」

と記され、これが東京東雲会の誕生の瞬間であったと思われ。それからはや60有余年が過ぎています。初代会長は塚田重さん、2代目以降、五藤節夫さん、小谷新太郎さん、坪崎信興さん、田中弘人さん、橋尾巖さんと続き、いずれも任期1年で柏葉1回生が務めています。

そのあと塔健吉さん(柏4)が長年務められ、西村和義さん(山1)に引き継がれた後平成10年から私が昨年6月末まで20年間にわたり務めさせていただきました。そして新たに現会長の林田英樹さん(山12)を迎え今日に至っています。

林田新会長は元文部省エリート官僚で文化庁長官等を歴任された方です。能力・人柄共に申し分なく当会の代表者として大変相応しい方です。また長年幹事長を務めた岸本郁男さん(山5)も交代され、今は奥田真三さん(山23)が務めています。奥田さんは副会長及び事務局長兼務で、会長のもとで細谷和夫副会長(山22)と共に会運営の中心になっていただいております。これに福田さん、須崎さんら若手も加わって非常に活気あるものとなっています。現在の副会長は他に、藤田寿彦さん(山7)、山根司さん(山10)、大久保慶一さん(山14)、中嶋貴輔さん(山15)、真嶋修慈さん(山47)が活躍しています。

広告

鈴木・曾我法律事務所
弁護士
鈴木 誠(山脈5回)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2番1号
日本プレスセンタービル 3階
Tel:03-3503-7272

広告

公益社団法人 日本工芸会
理事長
林田 英樹(山脈12回)

〒110-0007 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館内
Tel:03-3828-9789

浜本先生との出会い

私は昭和29年4月に東高を卒業しました(山5回)。その後東京の大学に進学し、司法試験の受験勉強をしていましたが、その頃浜本先生から旧二中と東高の東京附近在住者の同窓会を作ったという話を聞いており、私にも参加するようにと云われていました。浜本先生といえば私の中学(鳥取大附中)1年生の時の担任(国語)で、先生の頭文字のHをとり、1年H組とっていました。しかし私は大学は出たもののなかなか司法試験に受からずようやく昭和36年に合格しました。合格してすぐ浜本先生に連絡し、先生の勤務していた神田の今川中学校を訪ねました。先生はすでに教頭となっており、大きな教頭室に案内されました。その日は土曜日の午後ということもあって生徒も先生もほとんどおらず、先生と長時間話することができました。中学1年生の頃、鈴木は他校から転入してきて、勉強についていけなかったこと、よくぞ司法試験に受かったね…。などいろいろな話で盛り上りました。

浜本先生の大きな机の上を見ると、ガリ版が置かれ、その横に何百枚かのハガキが積み上げて置かれていました。どうして教頭先生がガリ版を刷るのか聞いてみると、それが正に東京東雲会の総会の案内状でした。当時はコピー機はなく、1枚1枚手で刷り上げていました。そして宛名書きも1人1人手書きでした。私はそれを見るに見かねてお手伝いさせて下さいと言い、それがその後50年以上続いていることになります。

会の運営について

東京東雲会では、毎年7月の第1土曜日の正午から霞ヶ関の法曹会館で年1回の総会を開いています。その外、12月と5月に総会の準備のため幹事会を開いています。

いつの頃からか同期山脈5回の岸本郁男君と中島睦夫君と私の3人で総会のたたき台のような準備をする

ようになり、これに副会長の方々の知恵が加わり、会の運営をしてきました。その概要は次のようなものでした。

第一部は幹事長の開会宣言のあと、三田ゆかりさん(山5)のピアノ伴奏で校歌を斉唱し、会長挨拶、会計報告などに続いて来賓の紹介のあと講師を招いて講演を行なってもらっていました。近年では鳥取出身の石破茂衆議院議員、深澤義彦鳥取市長さんなどをお願いしています。

第二部の懇親会では、東高出身の歌手御船里帆さん(山53)の歌や中島君紹介の芸能人の出演などがあり、会を盛り上げています。その後はハンドバックや電気製品などの賞品の当るくじ引きがあり、最後は「故郷」の合唱と三本めで締めくくっています。毎年100人近い同窓生が集っていますが、近年は30代、40代の若い卒業生も増えており、今回の会報の発行やホームページの作成へと発展しています。



昭和12年頃



平成30年

広告

株式会社 山陰合同銀行

取締役頭取

石丸 文男(山脈24回)

〒690-0062 島根県松江市魚町10番地
Tel:0852-55-1000(代)

広告

株式会社 鳥取銀行

代表取締役頭取

平井 耕司(山脈29回)

〒680-8686 鳥取県鳥取市永楽温泉町171番地
Tel:0857-22-8181(代)

『東京東雲』創刊によせて

東雲会 会長 常田 亨詳(山脈13回)



会報『東京東雲』の創刊にあたり、鳥取東高同窓会を代表して心から敬意を表すると共に感謝を申し上げます。また前年度ご勇退されました鈴木会長様のこれまでのご尽力に対し

て衷心より感謝申し上げますと共に、林田新会長様の下で東京東雲会が益々発展しますことを祈念しております。

さて、今年3月1日に母校鳥取東高の卒業式が挙行され、今年度の卒業生で同窓生の数が28,349名に達しました。この数字は鳥取東高の長い歴史を象徴していると同時に、多くの同窓生の方々の活躍の歴史であるとも言えます。3万人近い同窓生の中には数多くの方々が関東地区でご活躍なさっていると拝察いたします。2020年開催される東京オリンピックにおいては多くの同窓生の方々が重責を担われることでしょう。東京東雲会の更なる活性化と共に、同窓生の方々のご活躍願っております。

1922年6月23日に当時の文部省から学校設立認可の通知が送付されて以来、100年近い年月が流れ、東京オリンピックの2年後の2022年6月に、母校鳥取東高は創立100周年を迎えます。その時期にあたり、東京東雲会の活動が更に活性化されている現状は、他の地域、職域の同窓会の模範となり励みになると確信しております。現在、地元鳥取でも鳥取東高創立100周年に向けて同窓会組織の一層の活性化に取り組んでおります。従来からある鳥取市役所、鳥取県庁の同窓会組織の他に、鳥取JA中央会においても同窓会組織の立ち上げの動きが現在進行しています。今後も他の大規模な職域における同窓会組織の設立に向けて取り組んで行く計画であります。また、現在同窓生の方が主催する鳥取を拠点とした『FACEBOOK上の世代を越えた東雲会』があり、年長は90歳近く(柏葉)から年少は18~19歳の同窓生(山脈)が集う組織があり、活発に活動しています。

関東に居住されている同窓生の中の多くの方々が、時には帰省して母校鳥取東高で過ごした青春時代と鳥取の生活をもう一度味わってみたいと思っらっしゃると思います。「山脈青く中国の…」という校歌の一節にあるように、今なお私たちが過ごした青春時代の様子が、地元鳥取には数多く残っています。春には母校の近くの桜土手には桜の花が満開になり、夏には鳥取砂丘を初めとする美しい山陰海岸の景色が楽しめ、秋には校門の前の銀杏の木々が色づき、冬には雪景色に山陰を感じることができます。地元にお帰りの際には、是非母校鳥取東高と共に同窓会にも気軽にお立ち寄りくださるようお願いいたします。

末筆になりましたが、東京東雲会の更なるご発展と、同窓生の方々のご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。

鳥取東高が進む道

校長 尾室 真郷(山脈29回)



「東京東雲会」の皆様におかれましてはますますご壮健にて各界において多彩なご活躍をされておられることに心からお慶び申し上げます。また日頃より本校の教育活動に暖かい

ご支援とご協力をいただきお礼を申し上げます。鳥取東高に赴任してから3年目を迎えました。日々、多くの感動と喜びを生徒からいただき、生徒たちに感謝することの連続です。大好きな東高がもっともっと光り輝くために、生徒が「一隅を照らす」人になるために、高校時代に何を為すべきか、そして我々教職員はどう生徒と向き合ったらよいのか、悩みながら歩んでいます。

今現在、本校生徒・職員に投げかけ続けていることは「部活動と学習と学校行事に全力で取り組んでほしい」ということです。二兎を追うのではなく、三兎を追い続ける生徒の姿は昔も今も変わらない鳥取東高の素晴らしさであると思います。かつて2000名規模であった鳥取東高も1学年280名の7クラス。全校840名の規模でしかありません。伝統のあった剣道部、山岳部、新体操部も近年休部となりました。その中で生徒が県内大会はもとより、全国の舞台で活躍する機会が多くあり、心躍っています。平成29年度全国大会へと駒を進めたボート部・水泳部・卓球部・柔道部・陸上部・書道部・放送部をはじめ、その他の部活動においてもどれほど多くの活躍に感動を得たか計り知れません。そんな生徒の活躍を一番の応援団として私はこれからも追いかけていきたいと思っています。

20年間作成していなかった東高祭伝統の『シンボル』が昨年復活しました。苦労は確かに多くありましたが心に残ったものはそれ以上であり、新たな伝統へと受け継がれたらと思います。我々が決して記憶を風化させてはならない東日本大震災の被災地、東北を生徒が毎年訪問するようにもなりました。また昨年より授業の予鈴を『校歌』に変えたことも新たな試みでした。1日9回、1年間で1800回、3年間で約5400回も同じ時に同じ場所で耳にする校歌は一人ひとりの生涯にわたる応援歌として一生の財産になると信じています。

ただ忘れてはならないのは、今の子どもが社会で活躍する、20年後・30年後・50年後はどんな時代であるのか。教育は「現在」ではなく20年後・30年後・50年後を「生きる力」を育てなければならないと思います。大人の過去の常識を押しつけない、現在の常識にとらわれすぎない。そんな教育が必要なかもしれません。昔は良かったという言葉はもう通用するわけもなく、学校も新しい価値観を創造することがとても必要な時に来ているのだと思います。たとえいつの時代であっても、本校生徒は東高がみんな大好きで、「社会の何処かを支える人間」「一隅を照らす人」になると信じています。

東京東雲会平成29年度総会



東京東雲会総会は、例年7月の第1土曜日開催ということで、平成29年度は7月1日12時30分から千代田区霞が関の法曹会館に於いて開催され、郷土鳥取から、深澤義彦鳥取市長(山22)、常田享詳同窓会長(山13)、滝波和宏同事務局長(山24)、母校尾室真郷校長(山29)をお招きし、また、岡崎隆司鳥取県東京本部長(山28)、小島鳥城会副会長(鳥西高同窓会)、井上翠陵会会長(八頭高同窓会)にもご出席を賜り、会員約100名が出席し旧交を温めました。

冒頭、深澤鳥取市長が「皆と一緒に校歌が歌いたいので」と登場され、全員で校歌斉唱。引き続きの講演会では「集まればたちまち昔に戻る」と。また宝島という雑誌で毎年行っている、全国500の市町村の中で『もっとも住みたい町コンテスト』で、鳥取市が1番となったこと(前年は岩美町が1番…榎本岩美町長も山21)を中心に、今の郷土鳥取を紹介されるとともに、さらにもっと発展させたいとの講演をいただきました。東京東雲会のためにわざわざ鳥取からお越し下さり、2年越しの会員の要請にお応えいただきました。誠にありがとうございました。



第I部総会では、まず鈴木誠会長から「今回の総会で会長職に一区切りをつけ、今後は新体制のもと、若い会員に東京東雲会を活性化していただきたい」とご挨拶されました。続いて会計報告等幹事会報告がなされた後、役員改選が行われました。

林田英樹副会長(山12、文化庁長官・東宮大夫・国立新美術館長等を歴任された方)を第10代会長に選出。約20年間の長きにわたり会長をお勤めいただいた鈴木誠会長は名誉会長に就任されることとなり、これに伴う役員人事



案(後述)を全員一致で承認致しました。林田英樹新会長からは「伝統ある東京東雲会を、先輩諸氏のご支援、また若い会員の皆様の協力を得て、さらに発展させたい」とご挨拶されました。

第II部懇親会では、中嶋貴輔副会長(山15)の開会挨拶の後、西村和義相談役(元会長・山1)のご発声により乾杯。常田享詳同窓会長、尾室真郷校長のご祝辞を頂き、母校を取巻く環境の変化、これに対する対応、2022年に母校が100周年を迎えること、部活動などの選手の活躍の様子等をお話し頂き、『東高の今』をうかがう事が出来ました。その後、歓談に入り、お土産に頂いた、あご竹輪・

豆腐竹輪、西瓜に舌鼓を打ちながら各所で、郷土鳥取・母校東高、青春時代の思い出話などに花が咲いておりました。このような和気藹々とした中で進行し、そして中島睦夫相談役(山5)プロデュースによるエンターテイメント、母校出身の歌手「種まきピアニストりほ」こと御船里帆さん(山53)出演による「童謡を歌おうコーナー」があり、郷土が生んだ岡野貞一さん作曲の童謡を、里帆さんの軽快なトークと唄・ピアノ伴奏、また童心に帰って壇上ステージを盛り上げられた方もおられ、和やかな楽しい催物が続き、豪華賞品が当たる恒例の福引会で盛り上がりは最高潮に。恒例の横山勇氏(山5)の『貝殻節』、最後に『故郷』を参加者全員で歌い、山根司(山10)・大久保慶一(山14)両副会長のご発声により全員で手締めを行い、来年の再会を誓って散会となりました。

今回の総会では柏葉(旧制鳥取第二中出身)19回から山脈(鳥取東高出身)67回まで、幅広い年代の皆様にご参加頂き、感謝申し上げますと共に、更なる参加者の増加を願っております。

東京東雲会 幹事長 奥田 真三(山脈23回)

東京東雲会役員(平成29年7月1日総会にて承認)

会長	林田 英樹(山脈12回)新任・前副会長
名誉会長	鈴木 誠(山脈5回)新任・前会長
相談役	西村 和義(山脈1回)新任・元会長* (8代目会長)
相談役	中嶋 睦夫(山脈5回)新任
相談役	岸本 郁男(山脈5回)新任・前幹事長
副会長	藤田 寿彦(山脈7回)留任
副会長	山根 司(山脈10回)留任
副会長	大久保 慶一(山脈14回)留任
副会長	中島 貴輔(山脈15回)留任
副会長	藤田 博美(山脈18回)留任
副会長	細谷 和夫(山脈22回)留任
副会長	奥田 真三(山脈23回)留任 兼 幹事長・ 事務局長 新任
副会長	真嶋 修慈(山脈47回)新任・前事務局長

※他 幹事24名全員留任されましたが、個別のお名前は紙面の関係で省略させていただきます。

* 西村 和義相談役におかれましては、昨年11月6日ご逝去されました。



広告

日進技研株式会社

代表取締役

中嶋 貴輔(山脈15回)

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目2番2号
Tel:03-3862-3437(代)

広告

ワインと鳥取に会えるお店

BARURU
~awajicho~

バルル淡路町

店主:片山 香織(山脈45回)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-9-11 1F
OPEN:月~金 16:30~24:00 Tel:03-3526-2460



●「東京東雲会」へは毎回参加させていただいています。母校を共有している仲間同士のなごやかな雰囲気会で会話が進みます。また鳥取から届けてくださるふるりの味を頂きながらの懇親会は、色々な催しものの中で楽しい時が流れ、明日の勇気と活力をもらいます。若い方の活動、そしてパワーを発揮していただき益々発展し、盛り上がることを楽しみに希望を心にまた出席させていただきます。

(山脈7回 登佐 淑枝)



●昨年の総会で若い人達も参画する新体制となり、若い現役の大学生や若手の社会人などの姿が多く見られ若や

いだ総会、懇親会となり盛り上がりました。今年は新執行部が若いエネルギーで更に盛り上がった総会にしよう頑張っていると聞いていますので、大いに期待しています。そこで、これまで参加されなかった同窓生の方々も加わり、一緒に盛り上がって楽しんでくださるようご参加をお願いします。

(山脈14回 大久保 慶一)



●夏の始まりはいつも「東京東雲会」。弁護士に憧れた私は会場の法曹会館へ参加し、すばらしい先輩、同期、後輩と年一度の語らいは楽しみと誇り。特に昨年度は同期の深澤義彦鳥取

市長の来場、講話は格別であった。また、昨年は長年ご活躍された鈴木会長(弁護士)の勇退の年、そして一見、故郷の中学の校長先生のような包容力を感じる林田新会長の就任。今年も同期とともに参加し、新体制に協力していきたい。

(山脈22回 竹内 忠)



●定年退職した翌年に鳥取県人会に入会させていただいたところ、先輩、同期生に勧誘され、「東京東雲会」にも入会させていただきました。総会では

思わぬ御縁のあった先輩や、同期生に出会うことができ、参加して本当にありがたく思っています。今後も健康に留意しながら参加を続けたいとも思っています。

(山脈23回 真先 薫)



●昨年の7月1日、初めて「東京東雲会」総会&懇親会に出席しました。郷里で開催される節目ごとの同総会には毎回出席していますが、先輩方また後輩の人達の集まりは初めてでした。東高の現校長先生をはじめ、皆さま笑顔で親切に迎えていただき、思いがけない繋がりに驚いたり、懐かしい顔を見つたり…会食しながら時間はアツと言う間でした。今まで出席されていない方も是非出席してみてください。楽しいですよ♪

(山脈24回 高橋 千穂)



●思わぬ方に再会できました！昨年の開催日には、東高時代の同級生、お世話になった先生にも会えました。また、20代、30代の参加者も増えてきた感じですが。鳥取仲間の輪が広がりうれしいです。そして、毎度お土産の大山チキンカレーもおいしい(笑)♪ 追記、昨年結婚しました！

(山脈53回 神武：旧姓 齋藤 春菜)



●大先輩の皆さまにお会いする貴重な機会に参加することができ、大変光栄でした。年齢など分け隔てなく接して下さったり、パワフルで楽しそうに会話したり歌ったりされている様子は、当時を思い出す東高らしい雰囲気です。「やっぱり東高すきだなあ〜」と改めて感じました。高校時代の「友達や仲間」は今でも頼りになる存在です。そんな「つながり」や「輪」が世代を超えて拡がり、「絆」を高め、母校や現役生の発展に貢献できればと思います。

(山脈57回 福美 かおり)



●大学3年生ですが、初めて参加させていただきました。様々な経歴をお持ちの先輩方のお話を伺えるこのような機会は滅多にないため、大変勉強になることばかりでした。また、皆さまとても温かい方ばかりで、「東高に在学して良かった！」と何度も感じました。

(山脈65回 石原 敬子)

昨年の 総会&懇親会に 参加して

〔敬称略：卒業年順〕

思い出コーナー

上山 信一(柏葉19回)

東京東雲会の同窓会に出席しても柏葉出身の人は誰もいなくなりました。戦後七十余年を経て柏葉の面影は次第に薄れ、やがて消えていく日が近づいていることを思い、万感ひとしおです。



私達の世代は柏葉で学び、戦争から敗戦、復興、バブル、不況と激動の時代をひたすら走り続けてきました。晩年を迎えるようになってその人生を振り返り、当時のことがとても懐かしく、柏葉に残る思いをとペンを執った次第です。

旧制二中に入学した時、校長先生の訓話で「学校は勿論学問の場で広く知識を求め勉強する所であるが、同時にそこには多くの素晴らしい友達がいる。お互いに切磋琢磨しながら友情を育み、手を取り合って卒業してほしい」と言われたのが強く心に残っています。そして、いま余命を数えるようになって、本当に心を寄せて支えてくれているのは、家族と友達だと実感しています。

私達が二中で学んだ頃は、太平洋戦争の真只中で、まさに「軍国」で、すべて軍中心の上意下達、自由にももの言えない時代でしたが、当時の二中には、それに盲目的に迎合しない自由な雰囲気がありました。当然のこととして軍事教練もあり、軍事優先の教育でしたが、無理矢理それを押し付けるのではなく、先生達はそういう軍の行き過ぎから生徒を守っている感じでした。そして折に触れて、個人一人一人を大切に皆で力を合わせて生きていくこと、その中で個人の責任の大切さを教えられました。

当時の人々の生活は、極端な物資不足で食べるものにも事欠くいまの人達には想像できないような過酷なものでしたが、皆が心を寄せ合いお互いに助け合って生活を支え、国を守ってきたのです。

当時を振り返っていつも思うのは、どんなに貧しくても当時の人々の生活にはお互いを思いやる心の温もり、強い連帯感があったことです。そして、いまは当時と比べようもない程豊かで恵まれています。どちらが本当に幸せなのだろうかと考えさせられています。私達は柏葉の学生生活のなかで、人として生きる大切な心のあり方について教えられたように思います。心の故郷を訪ねる思いで、あの時のこと、この時のこと、当時をととてもなつかしく思うのです。

私達の学年(柏葉19回、昭和20年卒)は、入学164名で現在30名が同窓会で交流し、昨年の同窓会で12名集まりました。関東地区も6名健在で時々集まっています。卒寿となり同窓会もそろそろ終わりかと思いつつもながらも継続を望む声が多く、二人になるまでということになっています。

お知らせ

【平成30年度東京東雲会総会】

日時：2018年7月7日(土)12:30 開会

場所：法曹会館

千代田区霞が関1-1-1(電話：03-3581-2146)

会費：一般5,000円 学生：1,000円

皆様のご出席をお願い致します。

【深澤 義彦様 鳥取市長再選】

本年行なわれた鳥取市長選挙(3月25日投開票)において深澤 義彦様(山22)が再選されました。誌面をお借りしてお祝い申し上げます。

【訃報】

・西村 和義 様(山脈1回)

平成29年11月6日(月)ご逝去されました。

享年86歳。

東京東雲会第8代会長をお勤め頂くなど長年にわたって、ご指導を賜りました。

・長谷川 明機 様(山脈10回)

平成29年4月19日(水)ご逝去されました。享年76歳。

東京東雲会幹事をお勤め頂きました。

ここに謹んでお知らせ致しますと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

皆様から会員についてのニュースや異動などでお知らせしたいことがございましたら、事務局へご一報ください。



【編集後記】

東京東雲会報の創刊号をお届けします。福田 静香さん(山45)、須崎 浩史さん(山45)など若手の皆さまが実質的な編集を担っていただき、鈴木名誉会長の事務所などをお借りして編集を進めてきました。表紙題字「東京東雲」は奥村 浩治さん(山22)に引き受けてもらい、「東高らしい温かみのある」題字となりました。また鳥取本部、母校との連絡、会計等の総合的な編集支援には奥田 真三副会長(山23)が大活躍してくれました。創刊にあたって多くの会員の方々、鳥取県関係者の方々にご協力、ご支援をいただき、深く感謝申し上げます。(山脈22回 細谷 和夫)

[東京東雲会事務局]

〒100-0011

東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル3階

鈴木・曾我法律事務所内 東京東雲会

電話：090-3087-1394(幹事長 奥田)

FAX：03-3503-7273

Mail：tokyo.shinonomekai@gmail.com

[公式ホームページ]

<https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/>